



<「本」が教えてくれること…>

巷では、お笑い芸人ピースの又吉直樹氏による小説『火花』が芥川賞を受賞したことが話題になっています。若者の「読書離れ」に一石を投じることにできれば良いと願うこのごろです。

「**国語に関する世論調査**」（文化庁／平成7年以来毎年実施）によると「**1ヶ月に読む本の冊数**」を問われた項目に「**読まない**」と回答した者は**47.5%**にのぼる(平成25年度版)のだそうです。過去の調査結果と比較してみても、その割合は増加しており、更に「読まない」と回答した者のうち**44.7%**は今後も「読書量を増やしたいとは思わない」と回答しています。

単純計算で日本人の約1/4は「読書に無関心」なのです。

この調査は、毎年3月に行われているので、最新情報(平成26年度版)も近く発表されるでしょうが、期待の持てる数値は出ないでしょう。

実はかく言う私も、高校生のころまで読書らしい読書はしたことがありませんでした。(この「進路だより」を読んでいる皆さんは、意外に思うかも知れませんが…)そんな私の自主的な読書のきっかけは…当時、好意を寄せていた女の子が「読んでみて」と貸してくれた本でした。「この本を読めば、共通の話題ができる」…今考えてみると、実に不純な動機でした

しかし(…動機は確かに不純でしたが、)本は私の中で何かを変えました。本には、**自分には思いつかない考え方や見方、自分の知らない表現**が詰まっていた。私にとって読書は、自分の世界がいかに一元的なものであったかを知る機会であり、その向こうにある広い世界を知る機会になりました。いつしか自分から本を求めるようになったのを覚えています。

「**本を読まない人間は浅はかだ**」と父はよく口にしました。そんな父は、幼いころの私によく本を買ってきました。小学校高学年のころ、私の部屋の本棚には、50冊からなる赤いハードカバーの児童文学全集が並んでいたことを覚えています。その本は私が中学生のとき、ほぼ新品の状態で従妹に譲られました。それが私に対する父の決断だったのであろうことに気づいたのは、大学入学後のことでした。そして働くようになり、…親になった今となっても、そのことはどこか痛みを感じる思い出になって胸に引っかかっています。

あの本棚にあった本の内容を、残念ながら私は知りません。それどころか、どんな本があったのか、そのタイトルさえほとんど覚えていません。父があの本を買い揃えてくれたころの私の年代になった娘は、本が好きでよく読んでいます。あの本が今あったら、喜んで読むでしょう。私にはとても、あれだけの本を買い揃える甲斐性はありません。そして、父が**どんな思いで、本を買ってくれていたのかを今更ながらに痛感**します。

私にとってはこれも本の効用…本はいろいろなことを教えてくれます。

8月の進路関係行事

- 1(土) 夏季宿泊学習会
[~5(水)]
- 3(月) 梨大教育公開講座
[~7(金)]
- 5(水) SSH全国研究発表会
[~6(木)/大阪]
- 6(木) 夏季課外③Ⅱ期
[~8(土)]
- 8(土) 大学別模試③
[~9(日)]
- 10(月) 夏季課外③Ⅲ期
[~12(水)]
- 12(水) SS探究・SSⅠ
[~13(木)]
- 15(土) 大学別模試③
[~16(日)]
全統記述模試①
学研ハイレベル模試②
- 17(月) 午前中授業①②
[~21(金)]
夏季課外③Ⅳ期
[~19(水)]
SSⅠ
- 18(火) SSⅠ・SS探究
[~19(水)]
- 20(木) 夏季課外③Ⅴ期
[~22(土)]
- 21(金) SSⅠ・SS探究
神岡研修 [~22(土)]
- 26(水) 始業式等
スタディサポート①②
校内実力試験③
[~27(木)]
- 28(金) 文理適性検査①
プレゼン講座③

※○数字は学年を示します

<7・18(土)第3学年PTA懇談会を終えて!!>

7月18日(土)、この時期に恒例の「第3学年対象公開授業・PTA保護者懇談会」が行われました。保護者の皆様には、直前までの台風11号の影響を受けて蒸し暑い一日だったにも関わらず、多くの御来校をいただきましたことを御礼申し上げます。

当日は、フロンティアホールで理数科の保護者の皆様を対象に理数科主任(3年5組担任)仲山文昭が、視聴覚教室では普通科の保護者の皆様を対象に進路指導主事崎田 哲が、「昨年度大学入試結果報告」、「来年度入試の情報」を踏まえた上で、現役合格を見据えた受験生の在り方、この夏をどのように過ごすか…などについてお話を致しました。膨大な内容を御説明するには短い時間であったと思いますが、何かの参考になれば幸いです。

さて、いよいよ夏休みになります。3年生にとっては「入試の天王山」と言われる大切な時期です。「山」の向こうに勝機が訪れることを期待しています。また1・2年生の皆さんにとっては、来たるべき「天王山」を制すべく、今のうちから気力、体力、そして学力を養っておきましょう。

8月26日(水)、夏休みが明けて再び皆が揃う日、その目が充実していることを楽しみにしています。

<平成27年度 夏季宿泊学習会 inホテル光風閣くわるび>

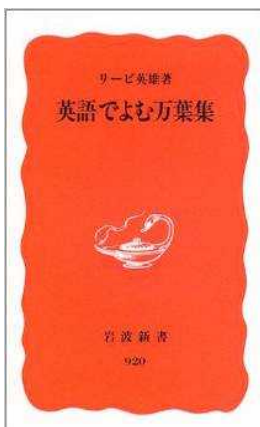
今年も8月1日(土)から4泊5日の行程で、夏季宿泊学習会が行われます。

従来、理数科・理数クラスで実施されていたこの行事は、昨年度から会場を西湖畔のホテル光風閣くわるびに移し、普通科3年生を加えて約300名の大所帯で行うことになりました。今年は2度目の“くわるび”です。参加する皆さん、思う存分、勉強できますよ。計画の詳細は後日、連絡します。

さて3年生の皆さん、10時間学習/日の旅…。この体験をして学校に戻ってくるころ、あなたには「受験」に対する確固とした覚悟が芽生えるはず。さあ出かけましょう。



<南高生に読んでもらいたい一冊>



『英語でよむ万葉集』は、今から10年ほど前に岩波新書から出された一冊です。著者はアメリカ人で日本文学者のリービ英雄氏。1982年に万葉集の英訳で、全米図書賞を受賞しています。掲載されている作品は約50首ほど…。万葉集が約4500首からなっていることを考えると、取り上げられている作品はごく少ないのですが、読み進めると「万葉集」の持つ世界文学としての高邁さを垣間見ることができるでしょう。各作品は原文1ページ、英訳1ページ、そしてその原文を味わいながら、英訳に至った過程の解説を2ページ…という構成でまとめられています。リービ氏は、“あの頃ははずかしいほど「外人」だった”と19歳の秋のことを回顧します。『万葉集』をリュックに入れて奈良や京都を彷徨し、よく分からない膨大なテキストを何とか読もうとした…のだそうです。この本は、学問に没頭することの楽しさも教えてくれるのかも知れません。